

## 平成27年度 第1回小田原市地域子育て支援拠点事業等事業者選定委員会概要

- 1 日時 平成27年10月30日（金） 午前10時～12時
- 2 会場 小田原市役所4階 第3委員会室
- 3 出席者  
委員 奥山委員、田近委員、加茂委員、日比谷委員、北村委員  
事務局 飯田子育て政策課長、早川子育て政策係長、杉本子育て政策係主査
- 4 配布資料
  - ・ 次第
  - ・ 小田原市地域子育て支援拠点事業等事業者選定委員会委員名簿
  - ・ 小田原市地域子育て支援拠点事業等事業者選定委員会規則
  - ・ 資料1 小田原市地域子育て支援拠点事業等事業者選定委員会の会議の公開に関する要領
  - ・ 資料2 小田原市地域子育て支援拠点事業等事業者選定委員会の役割について
  - ・ 資料3-1 小田原市子育て支援センター管理運営方針
  - ・ 資料3-2 小田原市子育て支援センター管理運営事業者募集要領
  - ・ 資料3-3 小田原市子育て支援センター管理運営事業者募集要領 詳細資料
  - ・ 資料3-4 小田原市子育て支援センター事業実施要綱
  - ・ 資料3-5 地域子育て支援拠点事業の実施について
  - ・ 資料3-6 小田原市子育て支援センター管理運営事業計画書 評価の基準・評価票
  - ・ 資料4-1 小田原市ファミリー・サポート・センター管理運営方針
  - ・ 資料4-2 小田原市ファミリー・サポート・センター管理運営事業者募集要領
  - ・ 資料4-3 小田原市ファミリー・サポート・センター事業実施要綱
  - ・ 資料4-4 小田原市産前産後家事支援実施要綱
  - ・ 資料4-5 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）の実施について
  - ・ 資料4-6 小田原市ファミリー・サポート・センター管理運営事業計画書 評価の基準・評価票
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容
  - ・ 委嘱状交付  
加部副市長から各委員（5名）に対し委嘱状を交付した。
  - ・ 副市長挨拶  
加部副市長から挨拶を行った。
  - ・ 自己紹介  
各委員が順次自己紹介を行い、飯田子育て政策課長から事務局職員の紹介を行った。
  - ・ 委員長及び副委員長の選出  
選出にあたり、事務局から奥山委員を委員長に、田近委員を副委員長とする案を提示し、全員一致で了承を得た。

・議事

(1) 会議の公開について

早川子育て政策係長が資料1により説明を行った。

質疑はなく、会議を公開とすることの了解を得た。

(2) 選定委員会の役割について

早川子育て政策係長が資料2により説明を行った。

【発言概要】

加茂委員 今日会議に事業者は来ていないが、応募しようとする事業者はこの会議の内容を知ることができるのか。

私が、どのように点数をつけるか等の提案をしたとしたら、それを知ることができるということか。

事務局 他市で同等の事業を実施しているが、どういう基準・配点にするということは事前に公表されている。その部分について事業者に聞かれても問題ないと事務局では判断している。

奥山委員長 公開されるという意識でいた方が良いと思う。

(3) 運営方針・募集要領・評価の視点について

早川子育て政策係長が資料3-1~6により説明を行った。

(地域子育て支援拠点)

【質疑・意見交換】

日比谷委員 プレゼンテーションは1事業者あたり何分程度を想定しているか。

事務局 前は、1事業者10分であった。

日比谷委員 その後に質疑応答をするのか。

事務局 前は、事業者ごとに20分の時間をとっていたので、10分のプレゼンテーションの後にヒアリングを行っていた。

日比谷委員 まず書類をもらって、書面上での点数付けを行う。そして当日を迎えてプレゼンテーションを聞き、質疑応答後、そこでまた点数が変わったりするのではないだろうか。点数付けの時間はあるのか。

事務局 全体を流した後に時間を設ける予定である。

奥山委員長 4箇所の支援センターがあるが、当日のプレゼンテーションは、センターごとにやるのか、事業者が複数で応募してくる場合もあるので、事業者ごとにやるのか。どのように進めるのか考えはあるか。

事務局 前は、1日かけて、施設ごとにプレゼンテーションを行っていた。事務局としては、今回は、事業者ごとのプレゼンテーションを行うことを考えている。

奥山委員長 1施設ごとだと4つの施設に応募する事業者はずっと最後まで待っていないなければならない。たとえば、2つの支援センターに応募した場合

- は、プレゼンテーションをそれぞれやらなければならない。それを事業者ごとにすることにより、事業者を待たせることもなく、時間の節約をできるのではないか。前回とはやり方が変わるようだが、いかがか。
- 日比谷委員 合理的でいいと思う。点数付けは通しで行うことになるので、記憶を呼び起こしながらやらなければならない。点数をつける時間は確保していただきたい。
- 北村委員 前回は、どの位の事業者から応募があったか。  
事務局 7事業者である。  
ファミリー・サポート・センターを含めると5つの選定箇所があったが、それぞれ4事業者程度の応募があった。
- 奥山委員長 20回のプレゼンテーションがあったことになる。  
加茂委員 プレゼンテーションする方の負担もあるだろう。  
事務局 全体の応募者数を考慮のうえ、配分を決めたいと考えている。  
また、ファミリー・サポート・センターと子育て支援センターの双方について応募があった場合のプレゼンテーションは、それぞれ両方でプレゼンテーションしてもらった方がいいと考えるがいかがか。
- 日比谷委員 1事業者で色々応募があった場合、合理的にやったらどうかという話があったが、区切りは区切りとして、ファミリー・サポート・センターと子育て支援センターを分けたほうがいいのか。別事業なのでいいと思う。
- 奥山委員長 ファミリー・サポート・センターと子育て支援センターの両方に応募する場合は、少し待っていただくようになる。  
加茂委員 性質が異なる事業なので、その方がいいのでは。  
奥山委員長 ファミリー・サポート・センターと子育て支援センターを2つの事業に分けてプレゼンテーションをしてもらうが、事業者ごとにプレゼンテーションを聞くということによろしいか。
- 各委員 (了承)  
加茂委員 一番上の子が6歳を迎える。下の子は0歳なので、いずれ上の子を連れて子育て支援センターに行けなくなる。年齢拡大について対応できる事業者に加点したい。  
事務局 市としては、未就学児までと整理している。参考意見として受け止めさせていただく。
- 奥山委員長 利用者としてでなく、エプロンをして小さい子どものボランティアのような活動をしているところもある。ただ、遊具の種類も乳幼児向けに配置しているので、その子にとっての居心地も考えなければならない。運用上の問題になるので、選定してからでも検討できるのではないか。

- 日比谷委員 市の施策として今後どう考えていくか、各自治体の取り組みを見ながら進めていく必要がある。
- 加茂委員 働く母にとっては土日の開設は大きい。私は土日の開設を提案してくれる事業者が応募してくれると良いと思っている。
- 奥山委員長 今回募集要領の中で工夫した点としては、曜日は今の開設日にプラスして提案をしていいことになった。場合によっては、そのような提案があるかもしれない。期待感をこめての募集要領になっている。前回に比べると柔軟性がある要領になっている。
- 事務局 地域の特長やニーズに応じた提案をしてもらうことによって、私たちはしっかり評価をすべきである。
- 事務局 評価票の中で、「開設日時拡大に関して努力している」という項目があり、特別な視点として出している。そこを考えながら提案があると考えている。
- 奥山委員長 要領に開設日の拡大について書いてあるので、応募事業者は、考え方を評価されるのだと理解すると思う。
- 加茂委員 情報の収集も重要と考える。他の機関との連携も必要だと思う。
- 奥山委員長 主任児童委員が地域で行っている事業との繋がりを持ちながらやっていくことも大切。
- 田近副委員長 全市で統一したやり方ではないが、回覧板で常時まわしている。
- 事務局 参考までに、主任児童委員、子育て支援センター、ファミリー・サポート・センター、こんにちは赤ちゃん訪問員、保健師などが集まって地域での取り組みなどの情報交換をする場を設けている。それぞれの場所で行っている良い事が広がるようにお力添えをしていただけるような事業者がきてくれると良いと思う。
- 奥山委員長 評価票は委員にとってつけやすくなっている。項目とか気になる点はないか。
- 各委員 (特になし)

(ファミリー・サポート・センター)

**【質疑・意見交換】**

- 加茂委員 産前産後家事支援を利用している。ファミリー・サポート・センターは素晴らしい事業だと思っている。妊婦さんにも知ってもらえるように周知が必要と考える。
- 奥山委員長 評価票の中に、「募集、周知方法についての工夫がみられる」に該当するのではないか。
- 北村委員 評価票にある、産前産後家事支援の中に、「会員に配慮した事務手順となっている」とあるが、具体的にはどのような意味か。

- 事務局 原則としての事務手順がある中で、産前産後の場合は、身動きが取りづらい状況であり、ルール通りでは支援が必要な時にできない事も想定される。依頼者のニーズに沿った支援ができる柔軟な対応を考えているかという点について表記させていただいた。
- 奥山委員長 生まれてすぐの状態に相談に行くのは難しい。依頼者の家にも行くことはあるか。
- 加茂委員 家まで来てくれた。
- 奥山委員長 このような点が柔軟性ということか。
- 事務局 そのとおりである。
- 加茂委員 支援会員の年齢層が高くなっている。若い世代の募集も含めてどのように考えるか。
- 奥山委員長 また、現在は研修会や交流会の開催が平日に限定されているが、そのあたりの設定についてはどうか。
- 奥山委員長 若い世代の支援会員を増やす工夫については、「会員登録しやすいように工夫がみられる」とか、「募集周知方法についての工夫がみられる」というところだと思う。募集と周知が分かれているほうがよかったのか。
- 日比谷委員 プレゼンテーションでは読み取れないこともあると思うので、質問して、それについて事業者がどう答えるかによって、事業者の考え方が聞けて委員が判断できる。ヒアリングの一つとしてもよいのではないか。
- 加茂委員 募集と周知を一緒にしてしまうと、どちらかに偏ってしまい難しいと思う。周知と募集は似ているが異なると思う。
- 奥山委員長 ファミリー・サポート・センターは、依頼会員、支援会員、両方会員という会員制度なので、どれもが会員募集となる。周知方法というのでいえば、どちらかといえば依頼会員への周知方法となる。トータルで工夫となると、日比谷委員がおっしゃったヒアリングで確認するとか、書類にもどの程度書いてくるのかもあると思う。
- 加茂委員 こちらから聞かないと返ってこない回答なのではないか。
- 日比谷委員 事業者がどのように答えるか、利用者の立場に寄り添った考え方をしているかが浮かび上がってくる可能性がある。
- 奥山委員長 もう一つの研修の曜日設定等については、研修について内容、時期、回数等とあるが、曜日等を追加するのもあるかもしれない。
- 事務局 募集と周知については、事業自体を周知することは非常に大切だと思っている。たとえば、一つ目の項目は「事業の周知に工夫がみられる」だけにして、次に募集と登録をセットにして、募集からの一連の流れでどう工夫しているかを見るように改めたい。
- 奥山委員長 本日の意見を踏まえて、工夫できるところがあれば、事務局に一任と

させていただき、修正等を加えていただきたい。

加茂委員はファミリー・サポート・センターの利用者でもあり、身近なところで提案をしていただいたので、意見を反映させて作っていただければいいと思う。

加茂委員 夜間等の緊急預かりも含めて、事業の拡大についての考え方を整理したい。

奥山委員長 今回は要領が決まっている中での募集なので、この枠で選定させてもらうが、小田原市が定めている範囲の中でどれだけ工夫してプレゼンテーションしてくるかというところを私たちが評価することになる。一方で、募集とは別に子ども・子育て会議の中で事業の見直しについて検討していくことになる。

加茂委員 事業者は必ずしも地元の密着した事業者とは限らないのか。

事務局 法人格を有するものという一点のみの条件である。

田近副委員長 100%満足する事業者を見つけるのは本当に難しい。

奥山委員長 自助・共助・公助というところで、自分のパートナーやママ友を含めて家族という自助の部分と、ファミリー・サポート・センターという共助の力を借りるという部分と、厳しいご家庭には公助という部分で、そのバランスが大事になる。核家族が多い中で、共働きなども含めて家族の限界があり、このファミリー・サポート・センターにも期待感がある。ぜひ進化させていける事業者を選定したい。  
多様な視点が出たので、地域子育て支援拠点、ファミリー・サポート・センターのいずれも、項目で修正ができる場所は事務局で対応していただきたいと思う。

#### (4) その他について

早川子育て政策係長が第2回の会議の公開について説明を行った。

##### 【質疑・意見交換】

日比谷委員 後半の審査は非公開であるべきだと思うが、前半のプレゼンテーションのところは、他の事例で公開しているところはあるのか。

事務局 総務課で確認したところ、公開している事例はある。

日比谷委員 途中まで聞いていて出てください、というのを考えると、初めから非公開にするのも良いのではと個人的には考えた。しかし、逆になぜ公開してくれないのかと傍聴希望者に聞かれた場合に、説明ができないのであれば公開しなければならない。そのため、他の事例を確認させていただいた。

事務局 他の事例もあり、公開としたいが、前回の選定委員会は、非公開としていた。

日比谷委員 透明性を高めるという意味合いか。

事務局 そのとおりである。  
奥山委員長 最終的に決定事項は公開になるのか。  
事務局 そのとおりである。  
奥山委員長 審議の過程が非公開ということになるのか。  
田近副委員長 言いにくい部分もあるだろうから、審議部分は非公開が良いだろう。  
奥山委員長 前回に比べて公開の度合いを高めるということで、プレゼンテーションのところは公開、審議のところは非公開として進めていきたい。

・その他

飯田子育て政策課長が今後の日程について説明を行った。

閉会